

第 32 回世界医学検査学会 秋篠宮殿下 お言葉（和文仮訳）

平成 28 年 9 月 2 日（金）

このたび、第 32 回世界医学検査学会が、ここ神戸の地において 2 度目の開催となり、30 以上の国と地域から参加された多数の皆様とともに開会式に出席できることを大変嬉しく思います。

世界医学検査学会は、1954 年、スイスで第 1 回が開催されてから、医学検査と公衆衛生の分野に携わる人々が、医学ならびに医療の発展に貢献するため、新たな症例や検査の手法などについて研究・評価を持ち寄って、学術的な情報交流を行う場であると伺っております。

医学検査は、超音波検査を含む画像診断や遺伝子検査など、今日の医学・医療には欠かせないものとなっております。本学会のテーマ「International Innovation of Laboratory Medicine - Basic and Advanced -」にありますように、基礎と応用の双方が両輪となって発展し、人々の健康維持を支えていくことでしょう。

同時に、結核やメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）などの感染症における薬剤感受性の検査や血栓症の検査等の災害時の医療救護など、世界各地のさまざまな公衆衛生の課題への対処に医学検査の分野において、大きな役割を担っております。

そのようなことから、世界の各地において、日々臨床検査の現場に身を置く臨床検査技師が一堂に会し、情報を共有し意見を交換することは、臨床検査の精度をさらに高めていく上で、誠に意義深いことと考えます。また、このたびは、臨床検査技師を志す学生も多数参加していると聞いております。この国際学会が将来の臨床検査の育成の場となっていることにも大きな意義を感じます。

おわりに、本学会における成果が、それぞれの国と地域における取り組みと活動に充分に活用され、世界の人々の健康増進につながることを願い、私の挨拶いたします。